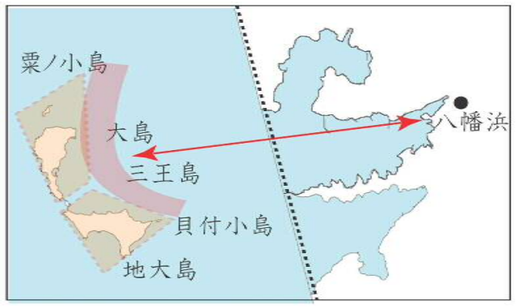
大島の番屋 -島民と観光客を迎え入れる地域交流拠点施設-

島のシンボルとなるような外観、島民の方から親しまれ、
ふらっと立ち寄りたくなるような、多様な利用ができる建物を
提案します。

■大島と八幡浜の関係性

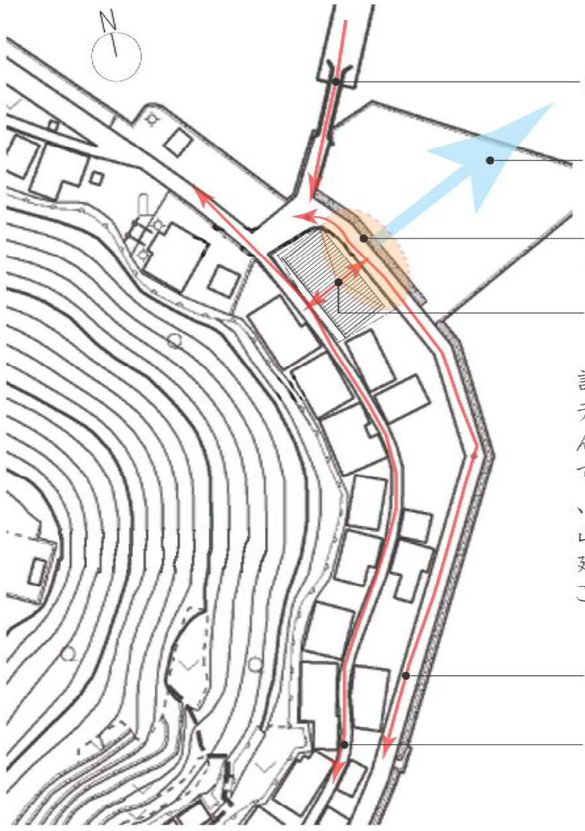


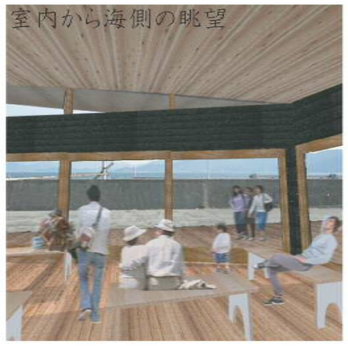
大島の島々は北から粟ノ小島、大島、三王島、地大島、貝付小島と固まりを為しており、地理的･経済的に結び付きのある八幡浜側に湾曲して島民や観光客を迎え入れるようにして存在しています。港や居住区も八幡浜側の大島の東側に位置しています。そこで、地域交流拠点施設を計画するにあたって、その大島の在り様、そのものを建物に反映させようと考えました。そして、題字の通り、「大島の番屋」として、海辺に必要な建物であり、島の雰囲気に合わせて簡易な建物であり、ふらっと立ち寄りやすい建物となるようにとの思いを込めて計画しました。

■建物計画概要

土地の高低差は現状のままとし、盛土等は行わず無駄なコストを発生させません。海風や北西の季節風の影響を受けにくくするため、階高を低くし平屋で計画します。そして、島の在り様、そのままに外観も海側へ開くような平面計画、屋根も海側に開く片流れ屋根で計画します。軒をしっかり出すので、外装の劣化防止に役立ちます。全居室を眺望の良い海側を望むようにし、非居室を北西側に配置することで冬季の北西側の季節風に配慮しました。居室と非居室を明確に分離したゾーニングを行うことで、管理･運営の効率化を図ります。内･外装に杉、家具･その他木部に桧を使用します。愛媛県では入手しやすい材なので、工期短縮･コストダウンが図れます。また、将来的な維持管理も容易となります。

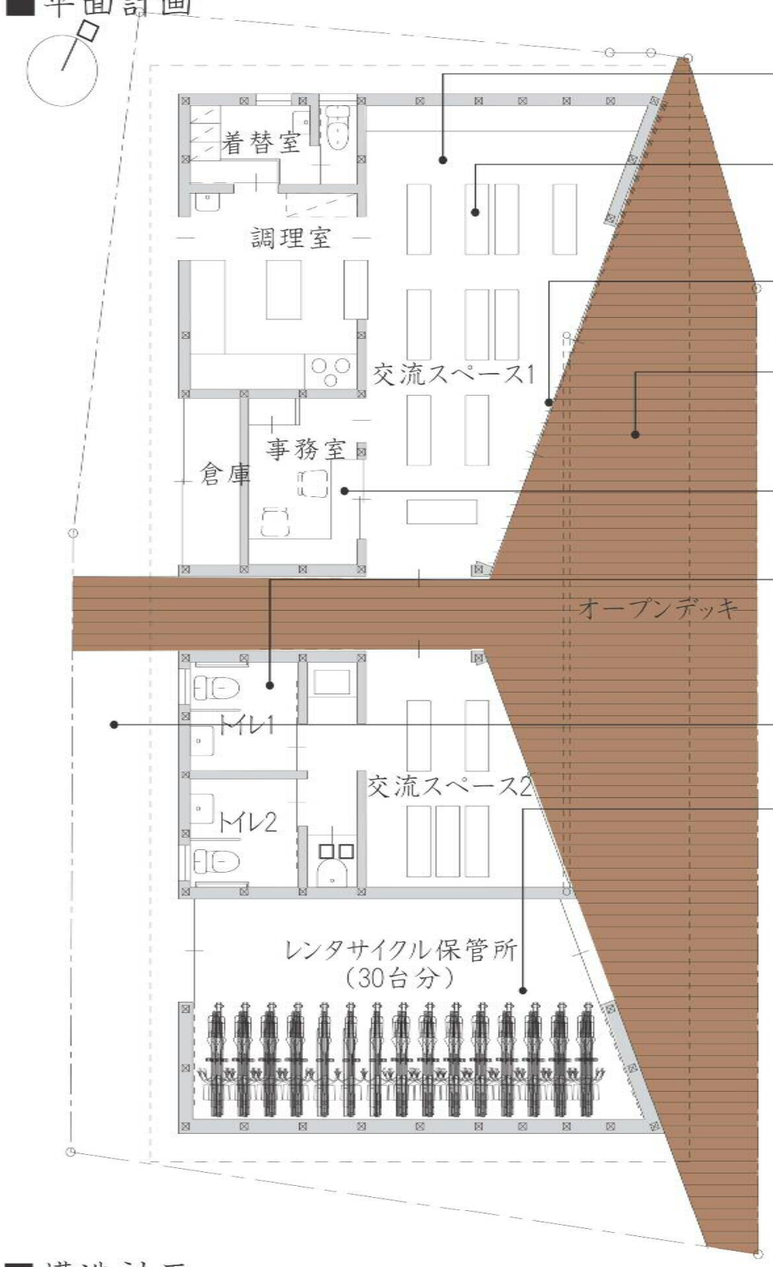
■配置計画





計画建物は海側がへこんだ平面計画となっており、オープンデッキと一体的に使えるように計画しています。また、そのへこんだ部分が海側から見ると人々を迎え入れるような外観になっているので、定期船で島を訪れた観光客にも目に留まりやすく、船着き場からも人を引き込み、誘導しやすくなります。また、山側動線と海側動線は敷地より南側で分断されていますが、建物内に通り抜け動線を設けることで、利便性と交流を促すことに寄与すると思います。

■平面計画



交流スペースは海側への勾配天井で開放的な空間

ベンチをテーブル兼用とし、ベンチを並べて大きなテーブルとしても使用可能。

交流スペース1と2とオープンデッキで多様な使い方が可能

オープンデッキと室内床は同面で仕上げ、バリアフリー及び空間の広がりに寄与

事務室は施設管理に対応し易いように建物中央部に配置

維持管理を容易にするため、便器数は少なめ。島民の方を重視し、バリアフリー仕様のトイレ。

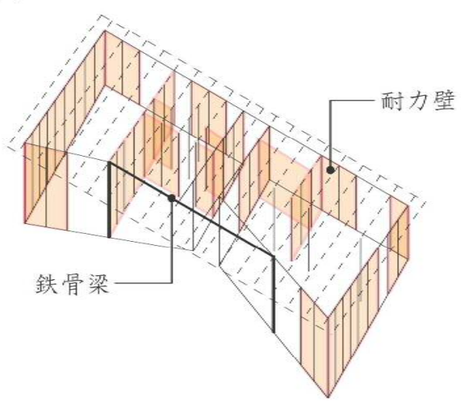
コストダウンのため、デッキ以外は砕石敷き

お年寄りが片手でも上げ下げできるサイクルラック

■面積表

室名	面積（㎡）
交流スペース1	28.00
交流スペース2	11.00
調理室	10.50
着替室、トイレ	4.50
事務室	6.00
倉庫	3.00
トイレ1、トイレ2、洗面	12.00
レンタサイクル保管所	29.00
合計	104.00

■構造計画

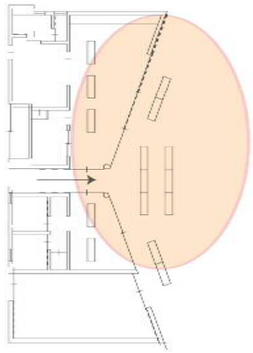


3～4m間隔のスパンを基準とした木造軸組で、番屋のような単純な架構形式にすることで経済性に配慮しました。また、海側中央部は眺望を確保するため、一部のみ鉄骨造とします。その大開口以外の部分では多くの耐力壁をとることが可能なので、十分な耐震性を確保することが可能となります。

■利用計画1（観光シーズン時）

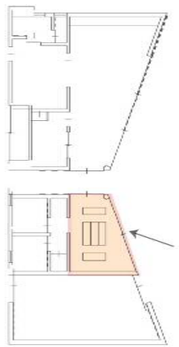
観光シーズン時は多くの観光客が定期船の待合所として利用します。また、夏の暑さが予想されるので、交流スペース1と2、それぞれに空調を付け、快適に利用してもらいたいと思います。また、定期船の待合の人々が少ない場合は、交流スペース1または2を使い分け、どちらかを使って、どちらかは閉鎖する等、人数規模に応じた使い方ができます。

■利用計画2（お盆や祭り時）



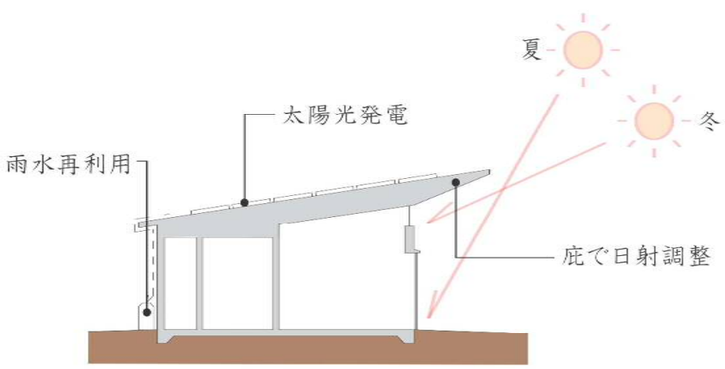
お盆の先祖供養や盆踊り、秋祭りの時は交流スペース1,2の海側の建具を開け放ち、交流スペース-オープンデッキ、その先の広場までを繋げることで一体的に使用できます。ベンチをオープンデッキにも設置し、交流拠点施設と祭り等の催事を結び付け、島にはなくてはならない建物として利用していただけると思います。

■利用計画3（日常時）



オフシーズン時は島民の方の利用を主として考えます。島民の方の利用する人数に応じて、交流スペース1をカラオケ講習会に利用したり、交流スペース2を将棋が好きな方、少人数でテーブルを囲んで使ったりすることもできます。目的に応じてこの交流拠点施設を第2の家のような使い方をしていただきたいと思います。

■設備計画



居室と非居室を区切ることで空調負荷を軽減します。そして、夏・冬以外は自然換気及び通風を想定しています。居室の空調はパッケージ式空冷ヒートポンプエアコンを採用し、各部屋の気積に合った空調機・屋外機とすることでランニングコストを適正にします。また、災害時に電力供給する太陽光発電+蓄電池+非常用発電を設置します。※最終の工事金額に応じて、設備仕様・規模は調整する可能性があります